



クラウド移行を取り巻く 8つの神話

私たちはアトラシアンソリューションパートナーの一社として、クラウド移行に消極的な企業の多くがクラウド移行に関して「正しい情報を得られていない」と感じています。

本ホワイトペーパーでは、セキュリティからパフォーマンスまで、さまざまなクラウド神話が誤解であることを証明し、企業のより良い意思決定をサポートします。

よくあるクラウド神話

- 4 セキュリティとコンプライアンス
- 8 クラウドのパフォーマンス
- 11 クラウドアプリ対サーバーアプリ
- 16 変更管理
- 20 クラウド上のデータ管理
- 24 管理者の役割と責任
- 29 アトラシアンクラウド製品のカスタマイズ
- 32 エンタープライズスケーラビリティ



01

セキュリティとコンプライアンス

クラウドセキュリティの誤解を解く

クラウド移行における最大の懸念の一つとしてセキュリティが挙げられます。しかし、その懸念は誰もが抱いているものです。実際、調査対象ITマネージャーの40%が、オンプレミスからクラウドへの移行における最大の課題はセキュリティとコンプライアンスだと答えています。

にもかかわらず、クラウド移行を完了した企業の94%が、移行後、セキュリティが改善し、(悪化ではなく)同様に、収益、生産性、パフォーマンス、スケーラビリティ、イノベーションも向上したと答えています。

本章では、セキュリティにおける神話と真実について説明します。最もよくある神話は次の3つです。

神話1

オンプレミスは、クラウドより安全

通常のオンプレミス設定では、チームは一度ログインするだけでシステムにアクセスできます。ユーザー名とパスワードを正しく入力し、セキュリティの「堀(境界)」を超えてしまえば、必要に応じて自由にアクセスできます。

便利なようでこれには問題もあります。たった1つの悪意のあるアクター、1通のフィッシングメール、1度のハッキングにより、システム全体が一瞬にして脆弱な状態になってしまうからです。社内データ、顧客データ、コードなど、あらゆるものが危険にさらされてしまいます。

アトラシアンはこの課題の対応策として、「ゼロトラスト」アプローチを推奨しています。「城（データ）」を「堀」で防御するセキュリティとは異なり、ゼロトラストは、すべてのユーザーやツールに対してセキュリティチェックを実行します。システムは、IDやデバイス認証情報をチェックし、各ツール間のセキュリティゲートとして機能します。そのため、ハッカーがシングルサインオンに成功しても、ユーザーによる許可とそのログインでアクセスできるツールが限定されるため、ハッカーによる被害も制限できます。

神話2

社内チームの方が、クラウドベンダーよりもセキュリティを重視している

セキュリティ問題に対処する時間が十分にあるか、と社内開発者に質問しても、その回答は恐らく気に入らないものとなるでしょう。なぜなら、開発者の48%がその時間はないと答えるからです。さらに厄介なことに、従業員の52%は上司が対面で話す時間をつくれないと答えており、管理職がセキュリティに関する認識のずれについて理解していないことが伺われます。

しかし、正しいクラウドベンダーを選ぶことができれば、このようなセキュリティに対する軽視はなくなります。アトラシアンはセキュリティ、特に厳格なテスト、災害復旧計画、転送時や保存時における暗号化などを重視し、複数のベストプラクティスを提供しています。パッチとアップデートリリース後すぐに利用できるため、クラウドツールを常時最も安全なバージョンで運用することができます。

アトラシアンのお客様は、会社規模やユーザー層を問わず、すべてエンタープライズ品質のセキュリティにアクセスできます。アトラシアンは、このシステムに文字通り数百万ドルの投資を行っており、今後もセキュリティを重視すると述べています。つまり、これまでセキュリティやそれ以外の社内問題の対応に追われていたチームが、他のチームのサポートや社内システム改善のために時間を割くことができるようになるのです。

チームがクラウドを使用していない

2020年末までに発生する企業セキュリティに対する攻撃の3分の1は、IT専門家がシャドーITと呼ぶテクノロジーツール（ITチームの管理下に置かれていない、つまり安全でない）を介して行われることとなるでしょう。

かなり衝撃的な数字に見えますが、これらの攻撃の大半は回避可能です。従業員がITチームに無断でクラウドツールを使用するのは、既存のフレームワーク内に必要なツールがないことが原因です。彼らがクラウドツールに目を向けるのは、生産性、スピード、コラボレーション、業務成果の改善につながるからです。実際、IT専門家の97%が、好みのツールを使用することで従業員の生産性が上がっていると述べています。

そして、これらのツールが提供できなければ、従業員は自身で対応してしまうでしょう。

平均的な組織では、1,200のクラウドアプリが使用されており、そのうちの98%はシャドーITです。

Gartnerは、企業の最高情報責任者（CIO）が質問する場合、「クラウドは安全ですか？」ではなく、「クラウドは安全に使用されていますか？」と聞く必要がある、としています。クラウドを使用する必要があるかどうかは問題なのではなく、従業員がクラウドを安全に利用するために必要なツールを持っているかどうかは問題なのです。



02

クラウドのパフォーマンス

クラウドでオンプレミスより高いパフォーマンスを提供する方法

ビジネスの生産性を左右するものがあるとするれば、それはツールのパフォーマンスです。ツールの速度が遅かったり、停止したりすれば、生産性、IT時間、場合によってはお客様の信用を失うなどの甚大な損失が発生します。

そのため、企業がクラウド移行を検討する際の最大の懸念事項がパフォーマンスであることは当然と言って良いでしょう。

幸い、クラウドのパフォーマンスへの懸念は根拠がありません。実際のところ、INAPの調査は、現在、企業がクラウドに移行する最大の理由はネットワークパフォーマンスの高さとしています。これは、稼働時間の保証、自動スケーリング、自動パフォーマンスアップグレードなどの点からも明白です。

本章では、パフォーマンスにおける神話について説明します。

神話1

クラウドはオンプレミスより速度が遅い

すべてのクラウドプロバイダーに当てはまるとは限りませんが、今日の優れたクラウドツールの多くは、オンプレミス版に比べ速度が速いという特長を持っています。実際、企業リーダーの76%がクラウド移行によりITサービスの速度が改善された、と述べています。

これはデータにより裏づけされており、アトランシアンがクラウドに移行したお客様から聞いた事実です。

アトラシアンはクラウドパフォーマンスは非常に高く、その秘密は最高のクラウドプロバイダーの一つであるAWS上に構築されていることが第一にあります。アトラシアンのクラウド製品は、99.9%～99.95%の稼働率を保証しており、規模の経済を活かすことで数千ものお客様に最高のテクノロジー、最新の変更、深い専門知識を提供しています。お客様のデータセンターは世界中に広がり、グローバルチーム向けに最適化されています。

アトラシアンはステータスページをリアルタイムに更新しています。システムの可用性とパフォーマンスの最新アップデート情報が常時表示されるため、お客様は遅れを取る不安から解放されます。

神話2

クラウドダウンがもたらす悪夢

いつ発生しても、ダウンタイムは正に悪夢です。ダウンタイムは、企業に平均1分あたり5,600ドルから9,000ドルもの損害をもたらします。さらには、オンコールエンジニアが晒されるであろう重度のストレス、不眠、フラストレーションも考慮しなければなりません。

しかし、アトラシアンのPremiumクラウドプランとEnterpriseクラウドプランは、稼働時間に返金保証がついているだけでなく、確かな実績があるため、お客様は **Atlassian Cloud** を安心してご利用いただけます。システムダウンが発生しても、復旧作業はアトラシアンが代行するため、深夜にたたき起こされることはもうありません。

“ **Atlassian Cloud**のおかげで、データセンターがダウンしても、深夜にたたき起こされることはなくなりました。最高レベルのSLAをお客様に提供できるため、私はもちろんお客様も非常に助かっています。”

LAURENT BORDIER氏
アトラシアンサービスマネージャー
LUCID MOTORS



03

クラウドアプリ対サーバーアプリ

クラウドアプリの神話への対応

サーバー上で業務を行っている方なら、当然ながらアプリがクラウド移行の最大の懸念事項となるでしょう。クラウドには同じアプリがあるのでしょうか？ クラウドに移行できるのでしょうか？ これらに異なる点、または類似する点はあるのでしょうか？。

アトラシアンのお客様からこのような質問をよく寄せられます。しかし、この点については朗報があります。皆さんが想像するより、クラウドはアプリと相性が良いのです。

アトラシアンのソリューションパートナーとして私たちは監査からインストールに至るまで、アプリ移行に関するすべての懸念に対応します。

神話1

アプリの数が少ない

数年前は事実だったかもしれませんが、クラウドの改善は急速に進んでおり、数年前に当たり前だったことが今でも当てはまるというわけではありません。実際、Atlassian Marketplaceには、クラウド製品向けに1,000を超えるアプリと統合機能があり、現在も増え続けています。2019年だけでも、アトラシアンは250のアプリを追加し、2020年前半には225ものアプリを提供しています。

Insight Asset Management、Jira Workflow Toolbox、JSU Automation for Jira、Structure、ConfiFormsなど、一部の人気の高いサーバーアプリは、すでにクラウド上での利用が可能です。そして、移行する頃には利用できるアプリの数はもっと増えているでしょう。

アトラシアンは、ユーザーの多くが使用しているSaaSツール（Slack、Jenkins、Github、Zoomなど）と正式なパートナーシップを結んでおり、その数は毎年増えています。これらの統合機能は、両社の専門開発チームによりサポートされており、より深い組み込み機能や機能改善への素早いアクセスのほか、ツール間での画面切り替えやコンテキスト消失などがなく、シームレスなワークフローを手に入れることができます。

神話2

アプリの移行ができない

Jira Cloud Migration AssistantやConfluence Cloud Migration Assistantなどのアトラシアン移行ツールを使用すれば、アプリの評価と移行が簡単にできます。この新しい機能を使用することで、チームが使用しているアプリのほか、クラウド上で利用可能なアプリについて把握することができます。その結果、移行計画の策定や移行作業の優先順位付けが可能となり、チームのワークフローについて新たな発見が得られるでしょう。

“サーバーの稼働、スペースの確保、作業の方法について頭を悩ませる必要はありません。サーバーやインスタンスについて何も気にしなくてよいので、自社の仕事に集中できます。”

PETER GRUBE 氏
ソフトウェアエンジニア
HOMEGATE

アプリによっては、データ移行の際、ベンダーに連絡を取る必要がありますが、アトラシアンでは、アプリデータのクラウド移行プロセスの自動化に取り組んでいます（2020年後半にリリース予定）。

まずは、私たちの社内エキスパートにご相談ください。アプリ評価やお使いのアプリと同等のクラウドアプリへ移行する方法についてお手伝いします。

オンプレミスと比較して機能が限定的

今や、1,000を超えるクラウドアプリが登場していることを考えると、これは事実とは言えません。クラウド上のアプリは、オンプレミスで使用しているアプリとは違うのでしょうか？ 違う場合もありますが、「違う＝機能が劣っている」というわけではありません。既存のクラウドアプリでワークフローを再現できることもあれば、別のワークフローを導入しなければならないこともあります。そして、アトラシアンツールの主要機能を使って、ワークフローで必要なものを全て実現する、という選択肢もあります。その場合、クラウド版アプリ機能の方が優秀かつ強固ということもあるでしょう。

クラウドはサーバーと比較して、
約50%も多く統合機能をサポートしています。
サーバーとクラウド両方がサポートしている統合機能の多くは、
クラウドにより多くの利点が見られます。

これは、一部のお客様にとって、移行に消極的となる原因になるかもしれません。しかし、結果的にはクラウドUIが多くの場合好まれ、クラウドアプリによってワークフロー、コラボレーション、プログラミングが大幅に改善されています。

“ チームは、新しいクラウドUIは従来のものより格段にクリーンで、邪魔にならず、柔軟性に優れていると感じています。クラウド版を使うことで、Jiraが開発ワークフローや、サポートの負荷とトリアージの優先順位付け、資産管理、会社全体の計画などについての信頼できる唯一の情報源となりました。”

SKY FROSTENSON 氏
プログラムマネージメントディレクター
VSCO

クラウドは安全ではない

多くの企業にとって、移行における最大の懸念事項はセキュリティです。しかし、幸いにも企業の94%がクラウド移行により安全性が向上した（低下ではなく）と述べています。

では、アトラシアンではどのようにしてアプリの安全性を保つのでしょうか？ アトラシアンは、最低セキュリティ要件、業界最高水準の脆弱性報奨金制度（Bug Bounty）、共同のセキュリティ自己評価プログラム、明確なプライバシーポリシー、GDPR（EU一般データ保護規則）準拠プラクティス、そして継続的な改善により安全性を実現します。また、個人情報/APIから常時削除されるため、ユーザーデータがアプリベンダーの手に渡ることはありません（安全性とGDPR準拠への対応）。

アトラシアンは改善策の一つとして、最近、Atlassian Marketplace上で新しいクラウドセキュリティバッジの提供を開始しました。お客様はこのバッジを使用することにより、Marketplaceの脆弱性報奨金制度（Bug Bounty）に参加しているクラウドアプリを特定し、倫理的セキュリティ研究者グローバルプールの脆弱性テストを利用することができます。

アトラシアンアプリのセキュリティアップデートとセキュリティーポリシーについてはこちらをご覧ください。



04

變更管理

クラウドにおける 変更管理の神話トップ3

企業がクラウド移行に消極的な理由の一つに、変更管理があります。

クラウド移行後も変更管理、リスク管理、データ保全に対処できるでしょうか？ クラウドを利用することで、変更管理の目標やエンドユーザーがリスクにさらされることはないのでしょうか？ 確かに大切なポイントです。しかし、この点については朗報があります。大掛かりな従来型の変更管理が、クラウドを使ったアジャイルなプラクティスと比べ、安全性や性能が高い、といったことはありません。

これはどういうことでしょうか？ 本章では、変更管理における3つの神話についてご紹介します。

神話1

コントロールでパフォーマンスを改善する

企業はこれまで、変更諮問委員会 (change advisory boards; CABs) や長い承認プロセスを経て、すべての変更を管理することにより、変更管理の目標を達成しようとしてきました。これは論理的には正しいと言えます。時間がかかっても、必要な承認が多いほど安全なリリースが可能となるからです。

ところが幸いなことは、スピードが重視される世界に生きる私たちにとってこの論理は耐えがたいものです。実際、State of DevOps Report 2019 では、変更管理プロセスにより時間がかかる従来型のプロセスを使用しているチームは、アジャイルなチームと比較して、実に2.6倍近くパフォーマンスが低い傾向にあるという結果が示されています。これは、パフォーマンスの高いチームがアジリティの点で優れている傾向にあることを意味し、これは、よりアジャイルなモデルを選択するチームにとって朗報と言えます。

“ 実際のところ、6段階もの承認プロセスやコンプライアンス承認委員会との何ヶ月もかかるやりとりは不要です。必要なのは、いくつかの簡単なチェックとバランスなのです。”

GUY HERBERT 氏
リスクフューチャリスト
アトラシアン

神話2

予告なしにリリースされる機能が多すぎる

アトラシアンが、恒常的に改善に取り組み、テストを重ね、新しい機能やセキュリティのアップデート、パッチのリリースを行っていることは確かです。しかし、ビジネスニーズやセキュリティのベストプラクティス、そしてユーザーからの期待が恒常的に変化するこの業界で取り残されないためには、これが唯一の方法なのです。

リリースに時間がかかると損害が発生します。セキュリティ対応が遅れた場合、間違いなく今後のビジネスに多大な影響を及ぼすでしょう。2019年前半だけでも、41億件ものデータ漏洩が発生しました。ハッカーにより、あなたのビジネスが中断された場合、どうなるのでしょうか？ 専門家によると、企業が負担する平均ダウンタイムコストは1分あたり5,600ドルから9,000ドルとされています。

もう1つは、コンプライアンス関連の損害です。使用しているシステムがその地域または業界の法的要件を満たしていない場合は、甚大な損害を被ります。つまり、セキュリティに遅れを取らないよう、コンプライアンスも迅速にアップデートする必要があります。

また、イノベーションカーブに遅れることで発生する損害についても忘れてはなりません。リリースの遅れにより、スピードが収益を左右するこの業界では、ライバル会社があなたのチームより優位に立つことも十分あり得ます。

目に見えにくい（重要ではないわけではではありません）損害としては、チームの作業時間があります。小規模なアップデートを頻繁に行う場合は作業にもすぐ慣れるので、あまり時間を取ることはありません。しかし、年に1回または2年に1回のペースで行うアップデートは、新しい機能やインターフェースのアップデートの習熟に時間がかかる傾向があります。このような大規模なアップデートは間違いなく新たなバグ発生の原因となるでしょう。さらに、バグ修正を頻繁に実施しなければ、チームは何ヶ月もその対応に追われることになりかねません。

神話3

アップデートのコントロールが ユーザーやチームに不可欠

一度に大規模な変更を行うより、定期的に小規模な変更を行うほうが、社内チームと同様、ユーザーにとって楽なはずです。

もちろんこれは理にかなっています。確かに全く新しいシステムを学ぶよりも、小規模な変更を行う方が簡単です。しかし、オンプレミスシステムにおけるアップデート管理は、年に数回、大量の変更でユーザーに攻撃を仕掛けているようなものなのです。これに対しクラウドでは、小規模な変更を一度行うだけで済みます。

迅速なバグ修正や変更が常時利用可能なため、チームの業務効率が改善され、これらのタスクに費やしていた時間をより重要な業務に振り向けることができます。

“クラウドに移行してから、社内のITチケットを50%削減できました。今ではバグ修正や管理者のリクエストに対応していた時間を、主に、新しいアプリや機能に対するユーザーの要望をヒアリングする時間に当てています。その結果、ユーザーの業務効率が改善され、お客様により多くの価値を提供できるようになりました。”

JAMES SEDDON 氏
シニアツールアドミニストレーター
IGLOO SOFTWARE



05

クラウドでのデータ管理

クラウドでのデータ管理の真実

今日のビジネス世界において最も解決困難とされる課題、それはデータです。

データは、お客様に貢献するパワーとなる一方、他のすべてのパワーと同様に、相応の責任が課せられます。お客様や従業員に対する責任だけでなく、事業展開する国々の法律に対しても責任があるのです。

そのため、クラウドについて述べる時、企業の最大の懸念事項がデータの安全性と管理であることは当然と言えます。

アトラシアンは、データの安全性とデータ管理の利便性を重視しています。本章では、クラウドはデータの安全性に欠けるという考えが誤解であることを説明します。

神話1

クラウド上のデータは安全ではない

近年、大半の企業（94%）が、クラウド上に置かれたデータの方がより安全性が高いと述べています。

これを裏付ける理由は複数ありますが、その一つとして、開発者の48%がセキュリティに費やす時間がないと述べていることが挙げられます。企業がセキュリティ管理を社内で行っている場合、セキュリティの重要性が軽視されがちです。また、別の理由として、クラウドではゼロトラスト、つまり複数のセキュリティチェック機能によりデータを保護するアプローチが導入されている点が挙げられます。（オンプレミスシステムでは通常、シングルセキュリティチェックが採用されています）。

セキュリティは、アトラシアンクラウド製品に組み込まれています。各製品にはクラウドサービス上で転送時あるいは保存時のデータの暗号化や、アトラシアン独自の脆弱性報奨金制度 (Bug Bounty) などの外部脆弱性調査を含め、データ保護を目的とした様々なコントロールが採用されています。

これまでの数十年間、エンタープライズセキュリティコントロールは大企業の保護を想定した、シングルサインオンによる境界型セキュリティで構成されていました。しかし、企業のテクノロジーを取り巻く環境は、「城と堀」型アプローチのような境界ベースのセキュリティモデルが開発された時代から、劇的な変貌を遂げています。

増え続ける今日のセキュリティ課題に対応するため、新たなセキュリティモデルの構築を担う専門家が注目しているのが、「ゼロトラスト」です。ゼロトラストは、企業全体を境界で大きく保護するのではなく、組織内のあらゆるエンドポイントとユーザーに保護機能を備えるフレームワークです。

神話2

クラウドではデータ保管場所をコントロールできない

アトラシアンは通常、データをできるだけ多くのユーザーがアクセスしやすい場所に保管します。コントロールを増やしたい場合は、新しい「アトラシアンクラウドエンタープライズ」プランをお使いいただくことで、データ保管場所を自由に選択できます。つまり、ビジネスニーズや法的要件に応じて、データのサブセット (チケットやページなど) の保管場所を選択できるのです。

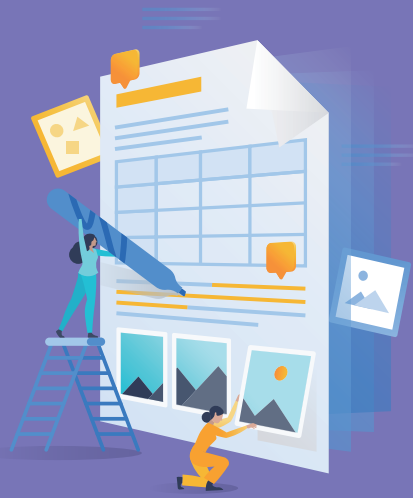
クラウドホスティングインフラとデータ保管場所の管理の詳しい情報については、アトラシアンにお問い合わせください。

クラウドでは直接データベースに問い合わせができない

技術的にはその通りですが、だからといって諦める必要はありません。Jira REST APIやConfluence REST APIを介して、ツールと直接やりとりができます。それでもやり方がわからない場合は、お近くのアトラシアンソリューションパートナーまでお問い合わせください。

サードパーティ・アプリや統合機能を使用すると、データのコントロールができない

これは誤解です。顧客情報の機密性を維持するために、アトラシアンのAPIではユーザー情報を非表示としています。つまり、Marketplaceアプリは、ユーザーが「公開」に設定した個人データのみアクセスが可能です。サードパーティが許可なくデータにアクセスすることはありません。



06

管理者の役割と責任

クラウド移行後、 管理者の役割が変わる理由

オンプレミスからクラウドへの移行を検討する管理者にとっての、最大の懸念事項の一つに、「クラウド移行後は、自分の仕事はどうなるのか？」という問題があります。

ツールをオンプレミス上に配置すれば、リリースのタイミングやセキュリティ、アプリのカスタマイズに至るまで、すべてをチームで完全にコントロールできるため、担当者の仕事は増えるものの、安心感は得られることでしょう。

一方、クラウドに移行すれば、責任の一部を他に任せる必要がでてきます。セキュリティを他の人に任せることで、ダウンタイムを最小限に抑え、アップデートをリリースし、上司に喜ばれる（または喜ばれない）システムをスムーズに運用するのです。

さてそこに何らかの価値はあるのでしょうか？ クラウド移行により、管理者がコントロールを失ってしまうことは本当はないのでしょうか？ そうなったら困りますか？ それとも実は助かりますか？。

コントロールを諦めると、混乱を招き、 仕事量が増える

まず、実績のあるベンダーに任せることは、すべてのコントロールを手放してしまうことと同義ではありません。信頼している友人や同僚に彼らの得意なことについて引き受けてもらうのと同じように、クラウドへ移行することは、ベンダーが得意とする作業を任せることなのです。

アトラシアンは、稼働時間、データセキュリティ、ツールアップデートにおいて信頼に足るベンダーです。過去10年間、最も安全なクラウドエクスペリエンスを提供することを目指し、クラウド製品に投資してきました。

ベンダーに業務の一部を委託することにより、自身やチームは不要な作業から解放され、戦略やビジネス改善といった別の業務に集中できるようになります。上司に自分をアピールするためにより多くの時間を割くことも可能になるでしょう。実際、SaaS型大手不動産仲介業者の一つである Redfin は、クラウドに移行後の最初の数か月で60,000ドルものコスト削減を達成しています。

“ はっきり言って、社内エンジニアやITの専門家にオンプレミスでシステム管理を任せることは、時間とお金の無駄です。すでに素晴らしい製品を提供する企業があるのに、なぜそれを活用しないのでしょうか？ そうすれば、私たちは自社の業務に集中し、システムのメンテナンスにかかる労力を減らすことができます。”

EVAN LERER 氏
エンジニアリングディレクター
REDFIN

さらに、管理者がコントロールを完全に手放す必要がない点も魅力です。status.atlassian.comにアクセスして、新しいワークフローを使用するだけで、サーバー管理者に必要な業務をほぼすべて継続することができます。

神話2

クラウドに移行すると、自分の仕事がなくなる

クラウド移行により、システム管理者の仕事内容は確かに変化しますが、これは良いことです。近年、クラウド管理について学習することは重要であり、従業員と企業の両者が競争に勝ち続けるためには、今後不可欠なものになるでしょう。クラウドを早期に利用すればするほど、必要なスキルを維持できるのです。

実際、2020年に発行されたあるレポートによると、企業の93%がすでにマルチクラウド戦略を策定し、企業の61%が来年度のクラウド移行を検討しています。クラウドの管理と移行についてスキルを習得することは、現在の業務と今後のキャリアを見据え、必要なスキルを維持することを意味するのです。

さらに、クラウド移行により時間の確保が可能となります。アトラシアンのようなベンダーに、アップデート、セキュリティ、修正、稼働時間の管理を任せることで、より大局的な仕事に集中できます。例えば、ビジネスの改善に対し、より戦略的、創造的、実践的に取り組むことができます。新たに次のような分野が挙げられます。

- 導入傾向とセキュリティにおけるギャップを発見する
- 新しいアプリや統合機能について調査、推奨することで、チームのワークフローをより適切にサポートし、生産性を向上させる
- ソフトウェアの所有権を管理し、シャドーITのプラクティスを事前に把握することで、コスト削減を支援する

- 社内ワークフローや社内プロセスを自動化する方法を新たに発見し、チームの敏捷性と生産性を向上する
- ベンダーと戦略的関係を構築し、ツールについての理解を深める

これらはすべて、事後ではなく事前に対応することで単にビジネスを安定させるのではなく、ビジネスを前進させているという点で共通しています。

“クラウドに移行してから、社内のITチケットを50%削減できました。今ではバグ修正や管理者のリクエストに対応していた時間を、主に、新しいアプリや機能に対するユーザーの要望をヒアリングする時間に当てています。その結果、ユーザーの業務効率が改善され、お客様により多くの価値を提供できるようになりました。”

JAMES SEDDON 氏
シニアツールアドミニストレーター
IGLOO SOFTWARE



07

クラウドのカスタマイズ

クラウドインスタンスの カスタマイズ

クラウドに比べ、サーバーはカスタマイズしやすいのでしょうか？ また、カスタマイズにより、チームの生産性は向上できるのでしょうか？

アトラシアンのおンプレミスサーバーには、クラウドへの取り組みにおいて企業からこのような質問が数多く寄せられています。もっともなご質問だと思います。既にシステムとワークフローを好みの場所に構築している場合、クラウド移行することで、それは変わってしまうのでしょうか？ チーム独自のニーズに応えることが困難になるのでしょうか？

クラウドは予想以上に柔軟です。私たちは、ソリューションパートナーとして、多くのお客様独自のビジネスニーズに対応し、複雑なワークフローをカスタマイズした実績があります。

神話1

サーバーの方が、ワークフローのカスタマイズが簡単

確かにアトラシアンのクラウドシステムは、あらゆるユーザーを想定し、各機能が標準化されています。しかし、カスタマイズの余地がないというわけではありません。これまでのサーバー管理者業務はほぼすべて、引き続きクラウド上で行うことができます。変わるのは業務の内容ではなく、業務の方法です。

サーバー管理者の方に切替時の体験（サーバーからクラウドへワークフローを変更した際の体験）について伺うと、状況が整理できないまま次善策で乗り切った、ベストプラクティスではない方法だった、次善的構成（または過剰構成）で処理した、本質的ではない問題を解決した、対応しきれず技術的負債を生み出したなど、旧式なアプローチをとった経験について話されることがほとんどです。

“ アトラシアンクラウドこそ、私が今でもアトラシアンを支持する理由です。クラウドには、私が最初にアトラシアン製品を気に入るきっかけとなった機能のすべてが備わっています。ツールとはチームをサポートし、向上させるために開発されるもので、ツールをサポートするためにチームに変更を求める（強要する）ものではありません。構成をシンプルにして、そこにある機能を使用さえすれば、アジャイルになれるのです。”

コミュニティリーダー
ATLASSIAN

神話2

社内でカスタマイズしたものが、チームにとって最適

管理者にはカスタマイズのほか、数多くの業務を抱えています。次善策、ドキュメントの紛失、ワークフローなど、多くの問題が複雑に絡み合い、管理者に次から次へと襲い掛かってきます。

カスタマイズは良い結果になることも、すぐに複雑になってしまうこともあり、初めて導入するワークフローは業務の遅れにつながることもあります。ワークフローの標準化やカスタマイズに関する理想的なパス設計についてエキスパートの支援が必要な場合は、お近くのアトラシアンソリューションパートナーにお問い合わせください。



08

エンタープライズスケールラビリティ

大企業によるクラウドの拡張方法

クラウドは大企業もサポートできますか？ ビジネスに合わせて拡張可能ですか？ 実際、サポート可能なユーザー数はどのくらいですか？

このような質問は頻繁に寄せられており、重要なポイントと言えます。そして、その答えは良いものばかりです。**Atlassian Cloud** は大企業をサポートしており、企業の成長に合わせて拡張が可能です。ユーザーが数千人に増えても問題はありません。

これらの神話は、小規模チームが大企業よりも簡単かつスピーディにクラウドの導入を成し遂げていた時代の名残であり、そこにある懸念は今や都市伝説に近いものがほとんどです。

神話1

クラウドは小規模チーム向け

Redfin、Afterpay、Dropbox、Rockwell Automationなどの大企業が、**Atlassian Cloud** を採用している事実を踏まえると、これは真実ではありません。実際、フォーチュン 500企業の80%が **Atlassian Cloud** のライセンスを有しており、アクティブユーザーは毎月1,000万人にもなります。また、世界190カ国で17万人を超えるお客様が **Atlassian Cloud** 製品を使用しています。

“ 私たちはインフラ管理に時間をかけ過ぎていました。既存のものを維持するより、改善に役立つものを新たに構築したいです。はっきり言って、社内エンジニアやITの専門家にオンプレミスでシステム管理を任せることは、時間とお金の無駄です。すでに素晴らしい製品を提供する企業があるのに、なぜそれを活用しないのでしょうか？ そうすれば、私たちは自社の業務に集中し、システムのメンテナンスにかかる労力を減らすことができます。”

EVAN LERER

エンジニアリングディレクター

REDFIN

クラウドは、計算能力と機能の両面において、ビジネスに合わせて拡張できるように構築されています。そのため、アトラシアンは各クラウドプラン（スタンダード、プレミアム、エンタープライズ）を階層化されており、それぞれのプランは下位のプランをベースに構築され、より大規模で複雑な組織も対応できるよう、機能やオプションを提供しています。

神話2

クラウドでは大企業の複雑性をサポートできない

大企業には、複雑なインフラや世界中に分散したチーム、そしてセキュリティやコンプライアンス、変更管理などさまざまな重要要件があるため、自社独自のやり方があることは当然のことです。

一方、上記の数字が示す通り、クラウドの利点は企業にとって明らかです。実際、適切なクラウドプランを選ぶことで、大企業の複雑なニーズをサポートできるだけでなく、その複雑さを単純化することもできるのです。



クラウド移行をご検討の際、
お近くのアトラシアンソリューションパートナーに
是非ご相談ください。

お客様に寄り添い、
ビジネスに最適なソリューションを提案することにより、
お客様の収益アップに貢献します。